



## 2025年8月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年4月14日

上場会社名 株式会社鉄人化ホールディングス 上場取引所 東  
コード番号 2404 URL <http://www.tetsujin.ne.jp>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 根来 拓也  
問合せ先責任者（役職名） 常務取締役 管理本部長（氏名） 浦野 敏男（TEL） 03-3793-5117  
半期報告書提出予定日 2025年4月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年8月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年9月1日～2025年2月28日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期中間期	4,054	15.3	137	—	162	706.0	213	—
2024年8月期中間期	3,515	12.3	5	—	20	—	2	—

（注）包括利益 2025年8月期中間期 210百万円（—%） 2024年8月期中間期 △0百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期中間期	16.16	16.09
2024年8月期中間期	0.20	0.20

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期中間期	4,600	437	9.2
2024年8月期	4,326	223	4.9

（参考）自己資本 2025年8月期中間期 421百万円 2024年8月期 211百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年8月期	—	0.00	—	—	—
2025年8月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年8月期の連結業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,030	13.6	182	164.0	158	333.7	105	—	7.96

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年8月期中間期	13,647,362株	2024年8月期	13,647,362株
② 期末自己株式数	2025年8月期中間期	458,600株	2024年8月期	459,100株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年8月期中間期	13,188,559株	2024年8月期中間期	13,186,062株

発行済株式数に関する注記

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	7
中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の回復等により景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、原材料価格の高騰や商品・サービス等の値上げラッシュによる物価上昇、米国の政策動向による不安定要素の顕在化等により先行きは不透明な見通しとなっています。

当社グループが展開する各事業においては、個人需要の持ち直しが見られるものの、景気回復基調を背景としたテナント更新時の家賃の上昇、人手不足を背景とした人件費・求人費の増加、原材料費の増加、一部事業における物流費の増加など事業運営コストが増加傾向となったことで、厳しい経営環境となっております。

このような中、当社グループは採算性を重視した経営を推進しており、収益性の高い事業への選択的投資と管理コストの効率化を実施しております。

これらの結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高4,054百万円(前年同期比15.3%増)、経常利益162百万円(前年同期比706.0%増)、親会社株主に帰属する中間純利益213百万円(前年同期中間純利益2百万円)となりました。セグメントの業績は次のとおりです。

#### (カラオケルーム運営事業)

当中間連結会計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は2,005百万円(前年同期比3.8%増)、セグメント利益は328百万円(前年同期比58.4%増)となりました。

当事業における中間連結会計期間は、9月～11月・2月の閑散期と12月の年末需要の最繁忙期を含む期間となっております。

カラオケ需要は、個人利用、ビジネス利用が回復傾向となりましたが、二次会利用や深夜時間帯利用がコロナ禍前と比較して大幅に減少しております。価格面では引続き低単価での営業が業界での主流となっており、厳しい営業環境が続いております。

一方、当事業で展開しておりますアニメ・ゲーム等コンテンツとのコラボレーション企画に特化したコラボ完全特化型カラオケ店舗「カラオケの鉄人コラボミックス」は、比較的好調な業績で推移しており、当中間連結会計期間において新たに2店舗を出店いたしました。引続き、地方都市を中心に出店を計画してまいります。

比較可能な既存店※は33店舗で売上高は前年同中間期比101.0%となりました。

#### (飲食事業)

当中間連結会計期間における飲食事業の売上高は981百万円(前年同期比60.2%増)、セグメント利益は65百万円(前年同期比89.3%増)となりました。

飲食事業は子会社である株式会社直久が運営する「直久」をブランドとしたラーメン店舗(直営8店舗、FC4店舗、業務受託1店舗)を主力とするほか、「赤から」3店舗、「京都勝牛」、「福包酒場」、焼き鳥専門店「鳥竹」、「かにごんまい」を運営しております。

当事業においては、日常的な外食需要の回復とインバウンド需要により、堅調な業績推移となりました。

また、ラーメン業態においては、工場生産の一部材料をOEM化することで生産体制の改革を進めております。

比較可能な直営・既存店※は11店舗で売上高は前年同中間期比106.5%となりました。

#### (美容事業)

当中間連結会計期間における美容事業の売上高は912百万円(前年同期比6.4%増)、セグメント利益は42百万円(前年同期比7.4%減)となりました。

美容事業は、中京エリアを商圏とする株式会社Rich to(9店舗)と首都圏エリアを商圏とするピアンカグループ(49店舗)により運営しております。

当事業では、堅調な業績を背景に積極的な出店戦略を進めております。重要戦略であるスタイリストの採用(新卒・中途)・教育にも計画的に取り組んでおり、2025年4月の新卒者においては、前期を大幅に上回る100名程度の採用を進めております。

比較可能な既存店※は50店舗で売上高は前年同中間期比100.6%となりました。

#### (メディア・コンテンツ企画事業)

当中間連結会計期間におけるメディア・コンテンツ企画事業の売上高は30百万円(前年同期比12.1%減)、セグメント利益は24百万円(前年同期比15.8%減)となりました。

「カラオケの鉄人モバイル」サイトを中心に運営を行っておりますが、フィーチャーフォンからスマートフォンへの乗換えが進み減収・減益となっております。

## (その他)

当中間連結会計期間におけるその他の売上高は124百万円(前年同期比55.5%増)、セグメント損失は71百万円(前年同期中間セグメント損失63百万円)となりました。

2022年3月より新事業の試みとして開始したゲームコミュニケーション事業(通称e-sports事業)に加え、当期よりダンス・ヨガ・トレーニング等での利用を目的としたレンタルスペース事業を開始いたしました。

※ 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当中間連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比較して274百万円増加し、4,600百万円となりました。流動資産は1,863百万円となり286百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金が154百万円、未収入金が234百万円及び前払費用が13百万円増加し、売掛金が13百万円、未収還付消費税が81百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は2,737百万円となり11百万円減少いたしました。主な要因は、のれんが15百万円、繰延税金資産が52百万円、保険積立金が9百万円、差入保証金が11百万円増加し、建物及び構築物をはじめとした有形固定資産が102百万円減少したこと等によるものであります。

## (負債)

当中間連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比較して61百万円増加し、4,163百万円となりました。流動負債は1,998百万円となり86百万円減少いたしました。主な要因は、買掛金が16百万円増加し、未払金が15百万円、未払消費税等が85百万円、未払費用が9百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は2,164百万円となり147百万円増加いたしました。主な要因は、退職慰労引当金が26百万円、長期借入金が144百万円増加したこと等によるものであります。

## (純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比較して213百万円増加し、437百万円となりました。主な要因は、当中間純利益による利益剰余金213百万円及び新株予約権が3百万円増加し、為替換算調整勘定が2百万円減少したこと等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。当該事業は、忘年会・新年会等季節の第2四半期と歓送迎会等季節の第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期連結会計期間の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、当社グループは、コロナ禍において業績へ多大な影響を及ぼした同一業種に過度に依存する収益構造を改善すべく、コロナ禍でも堅調な業績であった美容事業へ積極的に投資しており、また、他の事業への投資もM&Aを含め積極的に検討する方針ですが、投資した事業の収益が想定外に悪化した場合には、当社グループ全体の業績に影響を受ける可能性があります。

当第2四半期(中間期)においては、既存店舗の収用による特別利益の計上や店舗設備の減損計上があったものの、概ね想定どおりの業績にて推移しております。

各事業の状況は以下のとおりです。

## ・カラオケルーム運営事業

当社グループの主力事業である当事業におきましては、二次会並びに深夜時間帯の利用が引き続き弱い傾向となっておりますが、当第2四半期(中間期)に属する年末商戦は想定程度の需要となりました。

前期8月より展開しておりますコラボ完全特化型カラオケ店舗につきましては、比較的好調な業績で推移していることから当第2四半期においても2店舗を新規出店致しました。下半期においても積極的に出店を検討しております。

今後は3月・4月の歓送迎会の需要などが見込まれるものの、コロナ禍を契機とした二次会等利用の減少傾向が続いていることから厳しい店舗運営は続くものと判断しております。

## ・飲食事業

当事業におきましては、日常的な外食活動とインバウンド需要の回復により、堅調な業績を見込んでおります。

当期におきましては、当社グループに新たに加わった「鳥竹」(焼き鳥専門店)の経営統合を進めており、業績への貢献を見込んでおります。

## ・美容事業

当事業におきましては、積極的な出店と収益性が低い店舗の閉店を実施するとともにスタイリストの採用(新卒・中途)と技術教育を強化し、事業収益の拡大を進めております。

## ・メディア・コンテンツ企画

当事業におきましては、スマートフォンでの利用者の減少傾向により前期同等程度の減収・減益を見越しております。

店舗運営事業全般においては、人手不足による人件費の上昇や原材料費の上昇並びにテナント更新時の家賃上昇などの運営コストが増加していることから厳しい経営状況が続いております。

このような状況下を踏まえて、当社グループでは店舗運営事業の投資効率の向上を図る目的で、不採算店舗の閉鎖や譲渡を積極的に進めており、同時に、将来の業績貢献が見込める店舗については積極的なリニューアルや新規出店を図っております。

以上の状況により、現時点における当連結会計年度の業績予想につきましては、2024年10月15日に公表いたしました2025年8月期の通期の連結業績予想に変更はありません。

※当該業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により実際の業績はこれと異なる可能性があります。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当中間連結会計期間 (2025年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	738,605	892,851
売掛金	330,236	316,700
商品及び製品	40,082	42,819
原材料及び貯蔵品	90,568	74,285
その他	380,982	539,884
貸倒引当金	△2,974	△2,974
流動資産合計	1,577,500	1,863,566
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,026,151	940,000
工具、器具及び備品(純額)	85,356	97,153
その他(純額)	360,670	332,374
有形固定資産合計	1,472,178	1,369,527
無形固定資産		
のれん	66,839	82,700
その他	14,391	19,416
無形固定資産合計	81,230	102,117
投資その他の資産		
差入保証金	1,173,129	1,184,316
その他	25,500	84,505
貸倒引当金	△3,290	△3,286
投資その他の資産合計	1,195,339	1,265,536
固定資産合計	2,748,748	2,737,181
資産合計	4,326,248	4,600,747

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当中間連結会計期間 (2025年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	137,915	153,980
短期借入金	600,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	519,028	511,716
未払費用	466,421	456,460
未払法人税等	28,063	32,625
前受金	7,916	7,110
資産除去債務	—	21,266
賞与引当金	25,936	31,521
ポイント引当金	18,652	16,941
その他	281,050	167,358
流動負債合計	2,084,984	1,998,981
固定負債		
長期借入金	1,505,615	1,650,364
退職給付引当金	—	26,618
資産除去債務	419,560	391,924
その他	92,563	95,835
固定負債合計	2,017,738	2,164,743
負債合計	4,102,723	4,163,724
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	151,146	151,171
利益剰余金	189,797	402,861
自己株式	△170,067	△169,882
株主資本合計	220,876	434,150
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△9,541	△12,382
その他の包括利益累計額合計	△9,541	△12,382
新株予約権	12,190	15,255
純資産合計	223,525	437,023
負債純資産合計	4,326,248	4,600,747



## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
売上高	3,515,989	4,054,205
売上原価	3,047,407	3,418,874
売上総利益	468,581	635,330
販売費及び一般管理費	463,153	497,769
営業利益	5,427	137,561
営業外収益		
受取利息	194	269
受取保険金	6,099	801
助成金収入	15,513	32,889
為替差益	2,435	2,532
その他	8,927	19,965
営業外収益合計	33,169	56,459
営業外費用		
支払利息	16,317	22,089
支払手数料	—	3,139
その他	2,073	5,927
営業外費用合計	18,391	31,156
経常利益	20,205	162,863
特別利益		
固定資産売却益	—	860
資産除去債務戻入益	461	8,049
新株予約権戻入益	1,017	117
固定資産権利変換益	—	82,228
移転補償金	—	267,015
特別利益合計	1,478	358,270
特別損失		
固定資産除売却損	1,430	1,069
店舗閉鎖損失	1,461	2,334
減損損失	1,925	190,309
固定資産圧縮損	—	81,636
棚卸資産評価損	—	10,283
特別損失合計	4,817	285,632
税金等調整前中間純利益	16,867	235,501
法人税等	14,187	22,437
中間純利益	2,679	213,064
親会社株主に帰属する中間純利益	2,679	213,064

## 中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
中間純利益	2,679	213,064
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2,731	△2,841
その他の包括利益合計	△2,731	△2,841
中間包括利益	△51	210,223
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△51	210,223
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	16,867	235,501
減価償却費	74,311	82,001
のれん償却額	14,987	18,265
新株予約権戻入益	△1,017	△117
資産除去債務戻入益	△461	—
助成金収入	△15,513	△32,889
受取保険金	△6,099	△801
固定資産除売却損益(△は益)	1,430	208
店舗閉鎖損失	1,461	2,334
減損損失	1,925	190,309
固定資産権利変換益	—	△82,228
固定資産圧縮損	—	81,636
移転補償金	—	△267,015
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,007	△3
ポイント引当金の増減額(△は減少)	16	△1,711
棚卸資産評価損	—	10,283
受取利息	△194	△269
支払利息	16,317	22,089
為替差損益(△は益)	△2,435	△2,532
売上債権の増減額(△は増加)	△46,546	24,660
棚卸資産の増減額(△は増加)	4,898	14,456
仕入債務の増減額(△は減少)	20,395	9,125
賞与引当金の増減額(△は減少)	6,261	2,684
未払又は未収消費税等の増減額	3,761	13,313
その他	88,309	△163,449
小計	179,682	155,852
利息及び配当金の受取額	194	269
利息の支払額	△16,736	△19,597
法人税等の支払額	△62,022	△33,022
法人税等の還付額	75,441	—
助成金の受取額	15,513	45,873
保険金の受取額	6,099	801
営業活動によるキャッシュ・フロー	198,171	150,177
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
店舗閉鎖による支出	△1,421	—
有形固定資産の取得による支出	△82,785	△242,037
有形固定資産の売却による収入	—	2,517
無形固定資産の取得による支出	—	△7,485
貸付金の回収による収入	555	—
資産除去債務の履行による支出	△12,750	△2,747
差入保証金の差入による支出	△2,680	△23,678
差入保証金の回収による収入	20,399	20,460
保険積立金の解約による収入	—	149,897
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△30,701
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△8,583	39,163
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87,264	△94,610

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	150,000	—
長期借入れによる収入	—	400,000
長期借入金の返済による支出	△322,566	△297,327
新株予約権の発行による収入	—	3,390
その他	△14,218	△8,076
財務活動によるキャッシュ・フロー	△186,784	97,987
現金及び現金同等物に係る換算差額	666	692
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△75,210	154,246
現金及び現金同等物の期首残高	880,355	738,605
現金及び現金同等物の中間期末残高	805,144	892,851

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当社は当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算 書計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メデイ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	1,930,778	613,075	857,912	34,175	3,435,941	80,047	3,515,989	-	3,515,989
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,930,778	613,075	857,912	34,175	3,435,941	80,047	3,515,989	-	3,515,989
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	207,738	34,825	46,221	29,210	317,996	△63,118	254,878	△249,450	5,427

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△249,450千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△249,450千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「美容事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては、1,925千円であります。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算 書計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	2,005,057	981,964	912,664	30,039	3,929,725	124,479	4,054,205	-	4,054,205
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	2,005,057	981,964	912,664	30,039	3,929,725	124,479	4,054,205	-	4,054,205
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	328,972	65,937	42,813	24,585	462,309	△71,513	390,796	△253,235	137,561

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△253,235千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△253,235千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失)

「カラオケルーム運営事業」「飲食事業」の2セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上していません。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結累計期間においては、190,309千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食事業」セグメントにおいて、2024年9月30日付で株式会社鳥竹の株式を取得したことに伴い、当中間連結会計期間より連結の範囲に含めております。このことにより、のれんが34,127千円発生しております。

## (収益認識関係)

## 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、カラオケルーム運営事業を主たる事業としており、一般のカラオケルームでの楽曲・飲食サービス提供の他、アニメ作品等とコラボレーションしたカラオケルーム運営をしております。その他、ラーメン店を主体とした飲食事業、マツ毛エクステ&ネイルを主体とした美容事業、着メロ等の配信を行うメディア・コンテンツ企画事業を事業ドメインとして運営しております。

前中間連結会計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	1,771,964	50.4%
	コラボルーム売上	158,814	4.5%
飲食事業	店舗販売	526,087	15.0%
	卸売	38,617	1.1%
	F C	48,370	1.4%
美容事業	施術サービス	803,440	22.9%
	物販	51,653	1.5%
	卸売	2,819	0.1%
メディア・コンテンツ企画事業		34,175	1.0%
その他		80,047	2.3%
顧客との契約から生じる収益		3,515,989	100.0%
その他の収益		—	—
外部顧客への売上高		3,515,989	100.0%

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

当中間連結会計期間(自 2024年9月1日 至 2025年2月28日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	1,679,531	41.4%
	コラボルーム売上	325,526	8.0%
飲食事業	店舗販売	903,907	22.3%
	卸売	33,228	0.8%
	F C	44,828	1.1%
美容事業	施術サービス	850,503	21.0%
	物販	59,857	1.5%
	卸売	2,302	0.1%
メディア・コンテンツ企画事業		30,039	0.7%
その他		124,479	3.1%
顧客との契約から生じる収益		4,054,205	100.0%
その他の収益		—	—
外部顧客への売上高		4,054,205	100.0%

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。